

## 企画展 彩られた紙—料紙装飾の世界—

## 【開催趣旨】

料紙(りょうし)とは一般に書に用いる紙をいいます。今回とりあげる「彩られた紙」は、美しく染めた色紙(いろがみ)や、下絵を描き金や銀を蒔(ま)くなど、華やかに装飾された紙のことです。

手漉き紙の場合、つくられたままの紙を生紙(きがみ)といいます。これに対し、加工された紙は熟紙(じゅくし)とよばれます。装飾を施すだけでなく、平滑にするために硬いもので叩いたり、白くする目的でデンプンなどの添加も行われました。

このように加工された料紙の表面は、立体的で見た目よりも変化に富んでいます。顕微鏡や斜光線などを用いて観察すると、繊維の形状や配向性、添加物の有無、紙の表面の情報などから、その特性や装飾の技法を明らかにすることができます。

たとえば国宝「古今和歌集序」の料紙は、竹の繊維を原料とし、表面に布目を付けた上に、さまざまな色の胡粉を塗り、雲母摺りや空摺りの技法で吉祥文様を表現しています。さらに美しく見えるように色と文様の組み合わせを考えながら仕立てた卷子に本文を書いたものです。布目の上に書いた文字の線は途切れている箇所がたくさんあります。平安時代の人々は、文字の書きにくさを楽しんでいたかのようです。

本展では、奈良時代の写経から江戸時代の天津絵にいたるまでの料紙を、顕微鏡による拡大画像とともにごらんいただきます。人々の願いや美意識が反映された各時代の料紙装飾に光をあて、託された祈りや夢、そして美の移り変わりを探ります。

## 〔主な作品〕

- 「賢愚経断簡(大聖武)」奈良時代・8世紀 特種東海製紙蔵  
 国宝「古今和歌集序」藤原定実筆 平安時代・12世紀 大倉集古館蔵  
 「貫之集下」(石山切) 藤原定信筆 平安時代・12世紀 特種東海製紙蔵  
 重要文化財「東大寺文書屏風」奈良～平安時代・8～13世紀 大倉集古館蔵  
 「詩書卷」本阿弥光悦筆 江戸時代・17世紀 大倉集古館蔵  
 重要美術品「関羽図」伝円山応挙筆 江戸時代・18世紀 大倉集古館蔵  
 「平家納経(模本)」田中親美作 大正～昭和時代・20世紀 大倉集古館蔵  
 重要文化財「大唐三蔵取経詩話」中国・南宋時代・13世紀 大倉集古館蔵  
 ※期間中に展示替えや巻替えを行います。

## 【みどころ】

- ・国宝「古今集和歌集序」の料紙と文様の秘密
- ・マイクロSCOPEをとおしてみる料紙の世界
- ・人々の願いや美意識が反映されたさまざまな紙の姿

### 【基本情報】

会期:2020年4月4日(土)～5月24日(日)

※途中展示替日:4月27日(月)

※前期展示:4月4日(土)～4月26日(日)

※後期展示:4月28日(火)～5月24日(日)

開館時間:10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日:毎週月曜日(ただし5月4日[月・祝]は開館、5月7日[木]が休館)

入館料:一般1000円、大学生・高校生800円、中学生以下無料

※同会期中のリピーターは200円引き

※20名様以上の団体は100円引き

※障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料

主催:公益財団法人 大倉文化財団・大倉集古館

協力:特種東海製紙

公益財団法人 大倉文化財団・大倉集古館

TEL:03-5575-5711、FAX:03-5575-5712

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-3(The Okura Tokyo 正面玄関前)

HP:<https://www.shukokan.org/>

### 【開催中のイベント】

ギャラリートーク

担当学芸員が展示室にて解説を行います。

日時:4月16日(木)、4月30日(木)、5月14日(木)

いずれも14:00～

場所:大倉集古館 1階「如来立像」前にお集まりください。

料金:申込不要、要観覧料

### 【アクセス】

○東京メトロ南北線 六本木一丁目駅改札口(泉ガーデン方面)より5分

○東京メトロ日比谷線 神谷町駅4b出口より7分

○東京メトロ銀座線・南北線 溜池山王駅13番出口より10分

○東京メトロ銀座線 虎ノ門駅3番出口より10分

○東京メトロ日比谷線 虎ノ門ヒルズ駅2020年6月開通予定

### 【担当学芸員】

高橋裕次(takay@shukokan.org)・四宮美帆子(shinomi@shukokan.org)

※メールは両者にお送りください。

FAX:03-5575-5712

電話が取れないことが多いため、まずは、メールかファックスをお送りください。